

カリキュラム区分		授業科目	コミュニケーション論 Transcultural Communication			担当教員	藤代 節 (専任)
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目分類	看護学の基盤となる科目Ⅰ	授業形態	講義
選択必修	必修	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>コミュニケーションをうまくとることの重要性について考える。授業においては、様々な場面を想定して、円滑なコミュニケーションの取り方を学習したい。</p>					
授業のキーワード		<p>コミュニケーション、異文化、少数派/多数派、ノンバーバルコミュニケーション</p>					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
1回～14回	<p>各回、前半は講義形式で、後半は具体的な事例を取り上げて受講生の意見を募るなどして双方向的に進めていく。なお、事例を取り上げた小課題について短いレポートの提出を課し(隔週)、翌週に提出レポートから、多数派意見及び少数派意見をピックアップし講評する。</p> <p>コミュニケーションの諸相：コミュニケーションツールのいろいろ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バーバル・コミュニケーション ・ ノンバーバル・コミュニケーション ・ 言外の意味、 その他。 						
1回～14回	<p>コミュニケーションと文化的背景：コミュニケーションの文脈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 「常識」とは？、他 ・ 「高コンテクスト文化」と「低コンテクスト文化」 ・ PタイムとMタイム ・ 座る位置：上座、下座 ・ 少数派と多数派、 その他。 						
1回～14回	<p>事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マナー ・ 「日本的」とは？ ・ 映像資料によりコミュニケーションのあり方を探る ・ 外国人留学生の遭遇する文化衝突(社交辞令、世間体、他) ・ 芥川龍之介「手巾」 ・ 山川方夫「十三年」 ・ 中島みゆき「悪女」 ・ 伊勢正三「海岸通り」、 その他、多数の事例を取り上げる。 						
最終回	まとめと課題提出						
テキスト	特に指定しない。						
参考文献	授業中に提示します。						
成績評価の方法と基準	最終回に提出の小論文(80%程度)と隔週に作成の小レポート(20%程度)による予定。						
教員から学生へのメッセージ	<p>コミュニケーションのいろいろな場面を設定し、どのようなコミュニケーション方法が有効か考えてみましょう。想像力をきたえて下さい。</p>						